

# 今こそ家康推し!

## 星田と家康の深い縁



星田地域は、太閤さん(豊臣秀吉)が治めた大阪にありながら、

実は徳川家康とつながりが深い場所で、家康の人生の重要な場面でたびたび登場します。

今年はNHK大河ドラマの主人公になっていることもあり、家康に熱い視線が集まっています。

交野市でも今年度はイベントの開催や広報紙での連載等で、「家康推し」を盛り上げていきます。

☎ 社会教育課文化財係 ☎ 893-8111

### 星田は人生の分岐点!?

徳川家康が豊臣家を滅ぼし、名実ともに天下人となったのは1615年、73歳のときでした。家康は天下取りまでに、歴史を変えるような分岐点をいくつも乗り越えてきましたが、星田はそのうち二つの出来事と深い関わりがあります。



### 人生最大のピンチ、もはやこれまで!?

本能寺の変が起きたとき、堺に滞在していた家康も明智光秀に命を狙われることになりました。明智軍や落ち武者狩りからの逃亡の難しさに、一時は自刃も考えたほどの大ピンチです。

自刃は思いとどまり、「神君伊賀越え」と呼ばれる長い逃亡の末、無事に三河へ帰還した家康。その時のルートに交野の星田を通っているのです。しかも単に通っただけではなく、竹やぶで身を潜め、星田の庄屋だった平井家が脱出の手助けをしたと伝わっています。

もし、逃避行中に家康が討たれていたら…と、考えると星田が果たした役割は重要なものだったと言えます。

### 天下人へ最後の一步は星田から

家康は関ヶ原の戦いに勝利したのち、1603年征夷大将軍に任ぜられ江戸幕府を開きました。その後、大坂冬の陣・夏の陣で大坂城を攻め、豊臣家は滅亡し家康の天下取りは完成しますが、実はここにも星田が登場します。

家康は、京都の二条城から軍勢を進め、星田の領主市橋家が徳川方についたことで星田で本陣を張り、大坂城を目指す足がかりにしました。現在の星田公園(新宮山)がこの場所にあたります。新宮山では頂上の松に軍旗を掲げ、兵士を鼓舞したという「旗掛け松」の伝承が残っています。



### 市内に残る「家康推し」スポット



#### 家康宿陣の地・旗掛け松跡(星田公園)

現星田公園には、かつて新宮山八幡という神社があり、ここに石清水八幡から招かれた神が祭られていました。

大坂夏の陣の時、星田に領地をもっていた市橋長勝という武将が、家康の河内国入りの拠点とするために星田を守りました。そして市橋の策は成功し、家康の軍はここに陣を置き、軍旗である白旗を山上の松に掲げたといわれます。この松は「旗掛け松」として伝えられました。元の松は枯れてしまいましたが、現在3代目の松が育っています。



#### 星田公園で旗揚げイベントを開催

家康の軍旗をイメージしたのぼり旗を公園中に掲げるとともに、旗揚げイベントを開催します。

日時 4/16(日)10:30 ~ (雨天中止)

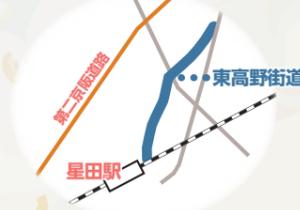
場所 星田公園(星田3丁目)  
駐車場はありません

内容 旗揚げ式、大坂夏の陣行列、和太鼓演奏と剣舞等

#### 東高野街道

豊臣家との最後の戦いになった大坂夏の陣で、家康は東高野街道を通り進軍しました。この道の一部は交野で現在も歩くことができます。

また、星田に伝承が残る「神君伊賀越え」の際も、東高野街道を経由して北河内から南山城へ抜けたことが分かっています。もとは、京都から高野山へ参るための信仰の道で、随所に石碑や石仏が残されています。



#### しんそいしのひ 神祖宮趾之碑

星田から大坂夏の陣に出陣した家康。後世、市橋家の子孫長昭が交野を訪れたとき家康が宿泊した建物はなくなり「御殿跡」と伝えられていましたが、荒れ果てていたと言います。これを嘆いた長昭は、神祖(家康)と、それに仕えた市橋家や平井家の活躍を伝えるために石碑を立てることを思いつきました。

その命を受けた平井家によって石材が調達され、文化3年(1806年)に御殿跡に石碑が完成しました。平成22年には市指定文化財になっています。

※個人所有地にあるため、見学時はマナーを守ってください。

#### 伝 家康ひそみの藪

「神君伊賀越え」(33ページに解説)の道中に身を潜めたと伝わる竹やぶです。石碑が現在の妙見坂小学校の敷地内に残されています。

